

『首切り地蔵伝説』

↳ 朝廷に正義を貫いて首を切られた夫の心の叫びを
現代の若者に伝えようとする妻の愛を

作　いづみかほる

登場人物

- 老人（よねの子孫）
- 勝（強がりで小心者の若者）
- 彰（真面目だが周りに影響されやすい若者）
- 理恵（何にでも興味を示す若者）
- 静香（素直だが自分の考えをあまり持たない若者）
- よね（平佐衛門の妻）
- 平佐衛門
- 役人1
- 役人2
- 役人3

都会の雑踏音、携帯電話の受信音、若者の騒ぐ声等、騒がしく聞こえてくる。

しだいに客席暗くなり、騒音や声はやがて消え、透明感のあるアカペラのうたごえが遠くから聞こえてくる。はつきり聞こえてくると、舞台の紗幕こしにアカペラの歌い手達がうつすらと映しだされてくる

あの空の向こうには

君の知らない世界がある

ほんの小さな時を（時を）

歩いているだけさ（だけさ）

傷つきやすいたましいが

ある日突然叫んだよ

空になろう 雲にもなろう

時を越えて愛する人よ

しみじみ思う日々のいとしさ

光のなかへ さようなら

紗幕こしに映っていた歌い手達の姿はしだいに消えてゆく、うたごえの残るなか、紗幕中央には石の地蔵が映し出されてくる

いつの間に現れたのか、語り手と登場人物を兼ね備えた雰囲気、不気味な老人が客席に語り始める。

老人

この石のお地蔵様、よお御覧下されや！ 右首のところから左胸にかけてぱっくりと割れておるのがおわかりかな？ このいたましいお姿のお地蔵様、実はな江戸時代にこの世に生きておった平佐衛門というお百姓さんの魂が込められたものにござりますわ。

紗幕には当時の時代が浮き出る

美しい写し絵

老人

今から約三百年も昔のはなしや、江戸時代も中頃の話じゃが、平佐衛門の村じゃあ福本藩の厳しい取り立てによつて、村人の中じゃあ食べるもんもなく腹をすかせて病にもなり、死人がぎょうさんでよつたそうじゃ。そこでや、この平佐衛門という男が、百姓の代表としてたびたび福本藩に行つてわけを話し、何とか年貢を減らしてもらえやせんかと頼んだんじゃが、何べん頼んでも聞き入れてはもらえんかったんじゃ！平佐衛門はもうこりやあ、貧しい村の衆を救う道はこれしかない！つまり、幕府のお役所まで行つて、じかに話しを聞いてもらうほかあらへん、そう考えたんじゃ。そやけどな、実をいうと幕府のお役所に行つてじかに話しをするいうことは、藩のおきてによつてきつう止められておつたことじゃ、おきてを破つたもんは重い罰を受け、そんときによつちやあ殺されてさらし首にもされる、そんな恐ろしいことを覚悟の上で平佐衛門は気持ちを固めよつた、そやけど気持ちをかためるまでにやあ平佐衛門もよお考えたんじゃ、たとえ自分が殺されることになつたにしても、幕府のお役人に村の衆のつらい暮らしを知ってもらえれば、いくらかでも生活を良くしてもらえるかもしれん…つとそう考えたんじゃなあ！決心した夜、平佐衛門は妻のよねにそんなことを打ち明けた！この、又よねという嫁はようできたお人で…

突然、舞台明るくなり学生風の男女ふたりずつの四人が登場
紗幕上がつてゆく

勝

おじいさんなげえよなげえよ！ 話しながら過ぎ！ よねだか、いねだかしんねえけどさあ

理恵

わかんない、勝！今のわかんないつて！

四人で愉快そうに笑い転げる
老人あきれて見ている

静香

おじいさん、毎日ここでそうしてしゃべつてんの？

彰

とおりがかりの人たち、ちゃんと聞いてくれるんですか？

勝 そんなひま人いるわけないじゃん！

理恵 そうよねえ、おじいさん！今の世の中みんな忙しいのよ、一秒も無駄にしたくないぞって感じにみえない？

老人 聞きたいお人だけが足を止めて下さればそれでええんじや

静香 ふくん…

理恵 でもさあ、私はちよつとは興味あるけどねえ

静香 うん、私も！

勝 なんだそれ?! 超わかんねえ!

理恵 だって、その平佐衛門さんとかいう人、結局最後は殺されちゃったんじゃん? ドラマだよ! ドラマ! (静香に) ねえちよつとは興味あるよねえ

静香 うん、勝は?

勝 別にどっちでも……って感じ? たださあ、あれだよ! あんまながいことここにいられないじゃん、な! 彰! (彰に耳打ちして意志を伝える)

彰 ああ…そうだよなあ…

理恵 え? 何で?

彰 だってさあ、せつかくの旅行なんだぜ! 遊ばなきやさあ!

勝 そうそう！ 遊ばなきゃ、もっと楽しいことしようよ！（意味ありげに）楽しいこと…さ！

静香 楽しいこと？

勝 そう！ 楽しいこと！ 俺達若いんだぜ、エネルギーあまつてるしさ、体中元気もりもりさ！どこもかしこも！
な！ 理恵！

理恵 （意味を受け取れ照れながら） いやあだ！ 勝ったら！

四人大声で愉快そうに笑う

老人、あきれて大きなため息をつく、その場を去ろうとする

静香 おじいさん又ね！ どうも有難うございました

老人 又ねって…もう会うことはあるまいなあ、さよなら

四人 さよなら

四人、老人の後ろ姿をしばらく見つめている

勝 ちよつと気味悪いさんって感じ？

彰 まさしく！ さてと！ これからどうする？ このあたり、もうちよつと歩いてみる？

勝 それよかさあ、今日泊るとこ決めといたほうがよくない？

理恵　ねえその前にさあ、なんかおいしいもの食べに行かない？

静香　うん！いいよ、彰と勝は？

彰　…いいけど

勝　しょうがねえなあ、まったくよお！

理恵　わあ〜！　よかった！（静香に）ねえ何食べよつか？

女性ふたりで盛り上がる

そこに、突然女の泣き声がかすかに聞こえる、彰だけがそれに気づく

彰　しっ！　ちよつと静かにして！

静かになる

理恵　どうかした？

彰　泣き声聞こえない？

四人耳をすます

勝　なんも聞こえねえよ！　気のせいだよ

泣き声再び

彰　ほら！

四人耳をすます

勝 なんも聞こえねえつて！

今度は話が聞こえてくる

彰 今度はなんかうたつてるよ、うたつていうか：能みたいなやつだよ！ほら、よおく聞いてみるよ！

三人彰のそばにくつついて改めて耳をすます

理恵 聞こえた！

静香 ほんとだ！ 聞こえる！

勝 やべえよ！ どつからきこえんだ？

彰 このへんからのような気がするんだよなあ

静香 なんか気持ち悪くない？

理恵 でもさあ、ちよつとだけワクワクしない？

静香 ちよつとね

彰が草の生い茂っている中から大きな看板を見つける

彰　　これなんだ!?

勝　　引っこ抜け、彰!

彰が看板を思い切り引っこ抜くと、その後ろから右首から左胸にかけてぱっくりと割れた石の地蔵。そしてその地蔵に手を合わせて一生懸命に謡をうたっている女(よね)の姿が現れる。

四人　　わあああああつ!!

女(よね)は若者達を横目にちらつと見るが、再び謡を続ける

石のお地蔵　　平佐衛門

みなに慕われ　　頼られた

民の願いをお役所に

勇気をだして直訴した

ところが卑怯な役人に

だまされ刀で

切られ切られて

地面に倒れ伏した

哀れ哀れな　　平佐衛門

歌をつくろか　　平佐得門

かたきとりたや　　平佐衛門

ああ　いとしいとしいや

平佐衛門

四人しばらく女の謡の様子を見ているが

彰 何あれ？

勝 さつきのじいさんといい、あのおばさんといい、ここらへんってなんかさあ…呪われてんじやねえの？ふつざけてるよ！

理恵 でもさでもさ、ちよつとはワクワクしない？なんかさあ…ステキななんか起きるような予感！

女（よね） 謡がおわり、静かに若者達の傍に近づいてくる
四人は知らず、会話を続けている

勝 おまえ本気かよお！ここでステキな何か起きる？言ってみろよ！どんなステキなことが起きるってんだよお！

彰 やめろよ勝！何イライラしてんだよ！？

勝 あいつむかつくんだよ！なんかあるとすぐワクワクするとか言つてさあ、ふざけんじやねえよ！

理恵 何言つてんの？！プラス思考に物事考えてどこが悪いのよ！あんたが弱虫だけじゃないの！

勝 なんだとお！俺のどこが弱虫なんだよお！ええ！はっきり言ってみろよ！！

理恵 そうやってすぐに大声出すところが弱虫子虫なのよ！

勝と理恵大喧嘩が始まる、彰と静香がわって止めに入るがおさまらないでいる。
そこにちょうどタイミング良しか悪しか女（よね）と四人が対面することになる。

よね (重みのある雰囲気) 騒がしいで…

彰 すいません、ほんとお騒がせしてまして…

よね うちの声が聞こえるんかい？

彰 もちろんです！(勝と理恵に) お前ら早くあやまれよ

静香 ごめんなさい

理恵 すんませんでした

勝 …どうも…すんません

よね すんません？ まあ、わかればよろしいがな、そうか！あんたらうちの姿みえるんやなあ

と言つて嬉しそうに又地蔵の前で謡を始める

彰 あの…そうやって毎日うたってるんすか？

勝 なに？これ…お地蔵さんつての？あれすか？なんか墓みたいなものすか？

静香 さつきも、どつかのおじいさんが、お地蔵さんがどうのこうのつてやってただけど…

理恵 うんそうそう、平佐衛門がどうのこうのつて説明してたおじいさんがいたよね

女(よね) 謡をやめ

よね ああ、あれはうちの子孫ですわな、ひ孫のひ孫のひ孫のひ孫のひ孫にあたるんや

勝 は？

よね そやけど本人はそんなことしりまへんで！

彰 あなたは…誰ですか？

よね 平佐衛門の嫁のよねですがな、何をいうてますの？！

理恵 よねって…さつきおじいさんの話しの中に出てきた人のこと？

よね そうや

四人コソコソ話している

よね ところであんたら旅のおかたですか？見慣れん着物を着てますよつてにな…あ！

四人びっくりして固まる

よね まさかお役人さんじゃありませんまいな？あいつらは何を考えてますやらわからんよつてにな、油断もすきもあらへんわな！

静香 (よねが話してる途中から小声で) 帰ろう…なんか不気味じゃん…

勝 そうだよ、やべえよやべえよ

理恵 あの人幽霊に間違いないよね

彰 やべえって！ まじで！

静香 怖い！

理恵 怖いけど…ちよつとワクワクもするし！

勝 やめろって！ そういうのまじで！ な！ やべえって！

よね お若い衆？

彰 (とっさに) へい！ なんでござえましよう？

勝 時代劇してどうすんだよ！

彰 だって…うまく合わせときゃあ危害加えないだろうと思つてさあ！

勝 なるほど！

よね お若い衆！

四人はよねの声がまるで耳にはいつていない

静香 そうよね、あのおばさん自分が幽霊だとか、別の時代の人間だとかってなんも感じてないみたいだもんね

よね うちの声、聞こえとりまつか？

彰
へい！

静香
へい！

理恵
へい！

勝
がつてんだい！

彰
がつてんだいは違うだろう！

よね
（四人をじろじろ見て）いつの時代からおいでになりましたのや？

理恵
いつってここは二千二十四年！

よね
二千二十四年！？　そうでつか……うちも長生きをしたもんや、今年で二百七十四才やもん！あけてもくれてもここで平佐衛門を思い、泣いてはうたい、うたっては泣きを繰り返しかえしてこの年や！そやけどうち、年のわりにお肌の艶がええやろう？

静香
はい、とても二百七十四才にはみえません

よね
そやろう？　でもな、そんなこと言うてくれるんはあんただけですわな！　聞いておくんなはれや！　毎日な、うちここらへんにいて通りがかりの衆に語りかけてるんやけどな、不思議なことに誰ひとりとして反応せんのですわ

静香
どういうこと？

理恵
わかった！　おばさんの姿がみんなには見えないってことよね！

よね そうなんや！ うちの肌の艶どころか、うちの姿そのものが見えへんのですわな

勝 俺達はちゃんと見える…なんで！！？

よね そやなあ、こうしてじかに人と接するんは実に二百年ぶりやがな！

勝 にひやつにひゃ…二百年？！

よね そうや！ 今日が晴れてあんたらのようなすばらしい若い衆に出会えてやなあ…さあ！ 今日はずまいことや
つておくんなはれや！

勝 は？

よね うちなんや成功する予感するで！

彰 あの…

よね ありがたやありがたや！ これで平佐衛門も浮かばれるやろ、うちも心がいやされますわ

彰 あの…成功とか浮かべられるとか言われましてもですね、僕らには何の力もないし…それから…

静香 それからおばさんをいやすだけの許容もないし

勝 そう教養もないしね

間

よね 何を言ってますのや！ あんたらの心の奥ふかあくに、目には見えん大きなエネルギーいうんが潜んでるんや！ うちにはわかるのや！

勝 (よねに聞かれないように) あのひと…実は霊媒師ってことない？

理恵 (大きな声で) あるかも！

よね よつしやあ！ みえてきたで！ あんたらの隠された才能がな、ああ！！ これで安心してうちの人をあの世に送れるがな…ありがたいこつちや！

静香 おばさんも安心してあの世に行かなきゃね

よね いやいやうちはまだまだ生きまっせ！ あんたら若い衆と仲ようしながら語り合おうやないかい！ なあ！

彰 ちよつと待ってよ！

勝 おばさん、悪いんだけど…俺達こいらに違う目的でやってきてるわけじゃん！ わかる？

よね わかるで！ 違う目的でな、そりやそうや！

勝 だからね、おばさんが何を俺らにさせようとしてつかわかんねえけど、他の人に頼んでもらえねえかなあ？

よね 他のひとにやあうちの姿みえへんさっき言うたやないか！ 二百年ものながいあいだ誰一人としてうちの姿見えへんかったのにやなあ、あんたがたには見えるんでつせ！ こりやあ神様の仕業や！ うちのひとのかたき打つん

はあんたら以外どこにもおらへんのや！ 神様がきつとあんたらを選びなさったんや、ですよつてにな、なあ

んも聞かんと、言うこと聞いとつたらええのや！

勝 あ！ 俺見えないよ！ おばさんなんて見えない見えない全然見えない

三人察知して

彰 俺も！ 俺も見えねえ！

理恵 ほんとだ！ 私も急に見えなくなっちゃった！

静香 私だって全然見えないもん！

よね (両手を広げて) これいくつ？

四人 (声合わせ) 十！

よね 見えてるやないか！

四人のリアクション

よね、又地蔵の場所にもどり再び謡を始める

勝 (少しイライラして) どうすんだよ！？

静香 なんか逃げられそうにないじゃん？

彰 とにかく何とかして逃げようぜ

理恵 ねえ、このさい…何をしてあげればいいか聞いてみない？ けっこうおもしろいことかもしれないじゃん？

勝 おまえさあ、もしだぜ！ あのおばさんの霊媒にかかって地獄に引きずり込まれたらどうすんだよ！

静香 変なこと想像しないでよ！

理恵 そうよ勝つてさあいつもそうじゃん！ 何でも悪いほうに悪いほうに考えてさ！

勝 何言ってるんだよ！ こういう時こそ最悪のことを考えておかなくてどうすんだよ！

理恵 でもさあ！ 良い方向に行くことだってあるでしょ！ 私が言ってるのは悪いことだけじゃなくて良いことも

両方のパターン考えてよってこと！

彰 わかったわかった…そう…すぐ喧嘩すんなよ！ こんなとこさあ！（一生懸命考え）ちよつとさあ…俺…聞いてみるからさ

勝 何を？

彰 だから…何を俺達にさせたいのかってことだよ！

みんな納得する彰、よねに近づく

静香 ねえねえ待って！ どっかの宗教団体みたいに白い服着させられて、電磁波がどうのこうのって、そういうんだったらどうしよう？

みんな不安のかたまり

よねは相変わらず謡を続けている

彰 あのだ…おばさん！ 俺達にやってもらいたいことって何ですか？

よね よくぞ決心して下さったありがたいこつちゃ！

彰 いや…決心とかそういうんじゃないやなくて…どんなことやるのか…なあんで…それだけでもまず…聞かせてもらえたらなあ…なあんで思ったりしてね

よね よつしやわかったで！ そしたらまず、着替えなはれや！

静香 ほらほらやっぱりそうでしょ！ 白い服着させられるんだ！

よね この地蔵の下にな、着物が納められておるよつてに、それをまずは着てもらいたいのがや

よねはそう言いながら、丁寧に地蔵を持ち上げ、その中から一枚一枚大切に扱いながら四人に渡してゆく
着物はかなりカビ臭いらしい

勝 (むせる) かびくせえ！

理恵 これ濡れてるんじゃないやなくて？

よね ちょっと湿ってはるなあ、辛抱しておくんははれや

静香 白装束じゃなくてよかった！

よね あの草陰にでも行って着替えておくんははれ

よね、そう言つて着替えをしているあいだ、再び謡を始める。
そうしているあいだに着替えを済ませた四人が、江戸の百姓になつて草陰から戻ってくる。

よね おおようお似合いやないか！ さああとほ襷や！（ひとりひとりに結んでゆきながら）これやこれや、これがないと敵討ちになりまへんがな、さあさあこれで出来上がりや！
ほな、これからしつかりかたきとつておくんははれや！

勝 かたき？

よね ああそうや！ かたきや、あんたら、あのまっかな夕日をみなはれや！ もうじき、この草むらはな、あの夕日のようなまっかな血で染まるかもしれんねん

勝 えええ！？

よね 大丈夫や！ あんたらだつたら大丈夫できるはずや！ 四人で力を合わせるこつちや！ そしたらな、相手をうまいこと退治できますよつてにな、がんばりや！

彰 あの…そんなに簡単に言われても困るんですよね…

よね とにかくうちの人はええお人やつた

勝 聞いてないし！

よね 村の衆にはよお慕われ、頼りにされとりましたわ、うちの村じゃあな、福本藩の殿しいとりたてによつてな、みいんな食べるもんもなく、病にかかつては次から次へと、毎日ぎょうさんの人が死んでいったんや！

静香 さつきのおじいさんと同じ話し…？

理恵 だって、さっきのおじいさんはおばさんの子孫なんでしょ？ひ孫のひ孫のひ孫のひ孫のひ孫だったよね

よね そうや、よう覚えとったなあ！ ありがたいこつちや！

理恵 ありがとう、そう誉められるとは照れくさいなあ

静香 そんなおばさん、福本藩の殿しいとりたてによって、みいんな食べるもんもなく、病にかかつては次から次へと、毎日ぎょうさんの人が死んでいって…そんなどうしたの？

勝 だいたい…その福本藩の殿しいとりたてって何？

よね 年貢のことや

勝 年貢？ 天狗なら知ってるけど…

理恵 今でいう税金のこと、そのくらい知ってなさいよ！ 全く！

勝 うるせえよ！

よね そやなあ、そのくらい知ってなはれや！

四人でからかい合っ

よね ほんでな、うちの大事な平佐衛門はな、百姓の代表としていくども福本藩に行つてわけを話し、何とか年貢へらしてもらえんやろか言うてたのんだんや！ そやけどなんべん頼んでも聞き入れてもらえんかったんや…

静香 かわいそう

よね そやろう、そうなんや！ かわいそやろう？ ほんでなうちの大事なお人の平佐衛門、しまいにはな、こりやあ幕府のお役所に行ってじかに話しするほかあらへんは！ そう言うて……

理恵 行つたの？

章 勇気あるなあ！

よね そやろう、うちの人勇気があつたんや！ そやけどな…実を言うとな、お役所にじかに話しをするいうことは藩のおきてできつう止められておつたことなんや…

理恵 藩のおきてやぶつたらどうなっちゃうの？

よね よう聞いてくれはりましたがな、おきてやぶりにやあ重いばつがつきもの、場合には殺され

理恵 ええ！

よね さらに首にされる

勝 げえええ！

四人それぞれのリアクション

理恵 ねえねえおばさん、もしかして平佐衛門さん、それ覚悟でお役人に立ち向かった
よね そうなんや！平佐衛門はたいしたお人やろ？ うちの大事な平佐衛門やからなあ

恋する乙女のおね、それを見つめる理恵と静香

理恵 おばさん、平佐衛門さんのことずっとく愛してたの？

静香 ラブラブ？

よね なんやのんそれ、何を言ってますのや！ 愛するもラブラブもうちにはようわからへんけどな、うちにとつては大事なお人やったんや！ 大事な大事な、な…

理恵 ふくん、なんかいい感じ

章 で？ 平佐衛門さん、殺されるの承知でお役所に行ったってわけ？

よね そやそや、うちの人はな、たとえ自分が殺されてもやな、役人らに村の衆の苦しい生活をちよつとでも知ってもらえれば、何とか少しづつでも生活をよくして貰えるんやないかと、そう考えたんや、そんでな、そう自分で決めた夜に、うちに打ち明けたんや

静香 おばさん、反対しなかったの？

よね 正直言うてどないしよう思ってたんやけどな、反対はせんかった、うちは黙ってその話し聞いたとつたんや。うちのひとが百姓のくらしをようする為に、昼も夜も頑張り続けていること、うちはよう知つとつたし、あんなの気持ちようわかるんや、でもな…固い決心を話すうちの人見とつたら何や涙がポロポロ出てきてな…止まらんのですわ！

ほかに何や知恵はないもんか、何とかならへんやろうかなあ思ってたんや

静香 おばさんやさしい…私…好きになった人にそんなにやさしくできないなあきつと…

理恵 私も…

よね 何を言ってますのや！ 何のご縁か夫婦（みようと）となり、永いこと一緒に暮らして苦楽を共にしてな、そのうちにお互いを知らず知らずのうちに思いやるように誰にでもなる！

静香 ふくん…私もそんな風になりたい

役人の声 平佐衛門！平佐衛門！

よね お役人さんや！ いよいよ始まるで！

勝 え！ 何を！？ 何を！？ 何を！？

よね ここでお役人と平佐衛門とのあん時の有様が、今まさに再現しようとしとるんや

勝 え！？

よね うちの人、ここいらに姿を現すはずや

草影に隠れていた平佐衛門、突現れる

平佐衛門 （小声で）よね！

よね あんた！

抱き合うふたり

役人の声 平佐衛門、願いは聞き入れられたぞ！

よね いよいよやなあ

平佐衛門 そやなあ…(若い四人に気づく) この若い衆が…?

よね ああそうや! あんたのかたきをとつてくれる衆や!

四人 ちよつとまつてよお!

三人の役人登場

役人1 福本藩のもんだが平佐衛門殿ではないか?

平佐衛門 確かに平佐衛門だが…

役人2 平佐衛門喜んでほしい、願いは幕府に聞き入れられた

役人3 すぐに御殿に来るようにとのことだ!

平佐衛門 あれほどまでに難しく仰せで願いを聞き入れてもらえんかった幕府が何ゆえに…?

よね そこでとまつておくんははれ!

よね、大きく手を打つ

お役人と平佐衛門はそのままの状態でストップしている

よね ここからや! ここから平佐衛門はお役人達にだまされるのや!

よね、拾った棒切れで線を引く

よね

わかい衆、よお聞いてや！ こっからむこうが福本藩の敷地や、みとつてや！ 臆怯にもこのお役人達、この領地にうちの人が一歩足を踏み入れた瞬間や！ いきなり刀抜いてうちの人を傷つけるつもりや！ うちの人、身をかわずひまもなく何を言っひまもなく…刀は右首から斜めに深く肩先にくいいてやな、血を吹き上げるんや！ うち的人是道の脇にうつぶせに倒れ、息絶えるのや…。

どないや？ お役人達は福本藩の領地にうちの人を足をふみいれさすが為に、幕府から願いが聞き入れられたいううそつばちを言ったんや、ほんで、そんなひどい殺しかたをしてるんやで！ そんなわけや！ どうか！ あんたらにかたきをとつてもらいたいんや！ 頼むで！

彰
そ…そんな！

勝
む…無理だよ！

静香
私…怖い！勝！（勝に抱きつく）

理恵
私…やってみる！ おばさんの気持ちわかるもん

静香
じゃあ私も！

勝
…よし！俺も…

彰
え？…みんながそう言うなら俺も、おばさんと平佐衛門さんの力になれるなら…やってみるよ

よね
よつしゃあ！ よお言ってくれましたなあ！ そいじゃあ始まりや！

よね再び手を打つ

お役人や平佐衛門動き出す

役人1 さあ平佐衛門殿、安心して行くがいい

平佐衛門 はあ…こんな有難い話しはありまへんな

よね …と平佐衛門が、この領地に足を踏み入れると…

お役人がいつせいに刀を振り上げる

よね そこで止まっておくんははれ！

よね大きく手を打つ

役人達と平佐衛門止まる

よね さあ若い衆！ こん時や！ この瞬間にお役人の刀をふりおとしておくんははれ！

四人 はい！

よね、再び手を打つ

動き出す役人達と平佐衛門

若者達、良い動きで刀を振り落とすことが出来る

よね そこで止まっておくんははれ！

よね、大きく手を打つ

役人達と平佐衛門止まる

よね ええやないかええやないかそんな調子や！ 今度はな、そんな刀をすばやく拾って逆にお役人に立ち向かうのや！

四人 はい！

よね、再び手を打つ

役人達と平佐衛門動き出す

四人は瞬間にしてその刀を拾い

役人に立ち向かおうとする

よね そこで止まっておくんははれ！

よね、大きく手を打つ

役人達と平佐衛門止まる

よね

そやそや！ それでええ！（静香と理恵に）次の一瞬であんたらふたりはその刀をうちの人の手に渡すんや、ほんで（彰と勝に）あんたらふたりは次の一瞬でお役人を切る！ そしたらそのあと残ったお役人をうちの人が切るよつてにな！ ええか！！

彰 は……はい！

勝 うまくいくかなあ……！

理恵 大丈夫よ！

静香 何とかなるわ！

勝 女はいざとなると強いよなあ……

よね がんばりや！！

四人 はい！！

よね よつしゃ！

よね再び手を打つ
役人や平佐衛門動き出す
決意の若者四人

よね 今や！

勝 待ったあ！

勝、腰を抜かす。

四人 勝！

よね慌てて大きく手を打つ

お役人、平佐衛門予定外だが仕方なく止まる

よね すんまへんなあ！予定外やなあ、辛抱しておくんははれや！

勝 下半身をかくかくさせている。

よね なんやなんやなんやねん！？

勝 足がかくかくしちやって…ほらこのとおり…ね！

よね　ね！ やあらへんがな！　はよ、あの辺の草陰でおしっこでもしてきや！

勝　え！？

よね　はよ！　してきいや！

勝　はい！

勝　足をかくかくさせながら誠に格好の悪い姿で必死に草陰に向かう。
それを複雑な心境で見守る若者三人だが彰ももおおしてくる

彰　…待つて！　俺も！

よね　情けないこつちや！　この大事な一瞬に！

ふたり何とか小便をしようとするが出ないらしい

彰　（小声で）勝…出たか？

勝　（慌てた精神状態続いたままで首を振りながら）出ない出ない…（泣きそうに）出ねえよ！

よね　まだか?! はよしいや！

勝　（大きな声で）はい只今！　出たあ！

彰　ひゃあ！

勝が大きな声を出してふんばった瞬間に小便が出て、それが隣の彰にかかったのである。

勝 あ！ ごめん！ おしっこかかっちゃった？

彰 きたねえなあ全く！

でもその刺激の為か彰もスムーズに小便が出てくる。

彰 ああ…でも俺も出た！ 出たよでたよ！

勝 出た？ おしっこ出た？ よかったね！

彰 うん！ よかったね、僕達！

ふたり全く幼児期の友達同士のようになっている

よね (大きな声で) まだか？

ふたり我に返る

勝 はい！

彰 ただいま戻りますです！ はい！

ふたりもどつてくる

よね はよ！ はよ！ええか！ 手を打つで！

静香
ちよつと待つて！ ねえおばさん、これでもし、もしもよ！
私達全員が殺されちゃう…なんてことあるの？

よね
ないない！

理恵
でも、家にラインだけはしておこう！ 今、かたきうちしてるよつてことだけでも知らせておけば、もし何かあつてもわかるじゃん！

静香
だよね、私も！

ふたりピコピコとメールを打ち始める。

勝
俺達死ぬの？

静香
(打ちながら) そんなのわかんないわよ

理恵
ねえねえ、私達今何をしようとしてるかわかってる？ 歴史を変えようとしてるのよ！ すごいと思わない？

よね
そうや！ 今からあんたらの手で歴史が変わるんや！
あんなひどい死にかたをさせられたうちの人の為に、
勇気あるあんたらが立ち上がってくれたんや！

四人
はい！

すっかりエネルギーが沸いた若者四人

よね
よつしゃ！ ほないくで！

よね、大きく手を打つ

役人や平佐衛門、動き出す。

刀と刀がぶつかり合い、若者四人張り切って頑張るが、あっという間に四人の刀は役人の手に再び渡ってしまふ。

役人1
ちよつと待った！

役人1が大きく手を打つ
今度は役人、平佐衛門以外の人物が止まる

役人1
歴史を変えることは出来んのじゃ！ ごめん！

つと役人1、平佐衛門を切る
他の役人もそこに加わる

刀が風を切る音
平佐衛門倒れる

役人1
さらばじゃ！

再び手を打って去る
よねと若者四人、元に戻り動き出す。

よね
あんたあゝ！！

よね、平佐衛門を抱き寄せる。

平佐衛門 …よね、歴史はそう簡単には…変えるのは無理やなあ…

よね
あんたあ〜!! (泣き叫ぶ)

勝
ああ〜!! (ショックで腰抜かす)

泣き崩れているよねに三人が寄る

理恵
…おばさん…ごめんなさい

静香
ごめんなさい

彰、泣いている

よね
あんたら、よお頑張ってくれ張りました

平佐衛門
…そや…気にしたらあかんで…歴史は変えられへんかったけど…このありさま…を…やな…次の世に…

平佐衛門、息絶える

よね
あんたあ〜!

三人
平佐衛門さん!!

勝
わあ〜!!

みな泣く

そんな状況のなか、よねが搾り出すように謡を始める

そのなかで若者の芝居が続く

石のお地蔵 平佐衛門

みなに慕われ 頼られた

民の願いをお役所に

勇気をだして直訴した

ところが卑怯な役人に

だまされ刀で

切られ切られて

地面に倒れ伏した

哀れ哀れな 平佐衛門

歌をつくろか 平佐得門

かたきとりたや 平佐衛門

ああ いとしやいとしや

平佐衛門

理恵

(興奮しながら) 平佐衛門さん、歴史は変えられへんかったけど、このありさまを次の世に…そのあと何言おうとしたのかしら

彰

(しゃきつとして) 次の世に伝えておくんははれ!

理恵

こういう事実があったということ、絶対伝えるわ!

静香

うん! おばさんと平佐衛門さんとの素晴らしい愛情物語のこともね

静かにハミング聞こえてきて紗幕がおりて来る。そしてそこには、二つの地蔵が映し出されてくる。

ある日突然叫んだよ

空になろう 雲にもなろう
時を越えて愛する人よ
しみじみ思う日々のいとしさ
光のなかへ さようなら

しだいに大きく盛り上がり、そして最後は静かに幕が閉まってゆく

△あらすじ▽

現代の若者の典型のような男女四人が、恋愛ごっこ的な軽い感覚での小旅行でここ、神崎町にやって来る。

そこで、江戸時代の実際にあつたという、右首のところから左胸にかけてぱっくりと割れているという地蔵の伝説を話す不気味な老人を見かける。その話しは、村人達の暮らしを少しでもよくしてもらおうと幕府に直訴し、しかし、掟を破つたとして無念にも役人に切られ殺されていった平佐衛門という勇氣ある男の話し、今でもその地に、右首のところから左胸にかけてぱっくりと割れているお地蔵様が飾られているという。

ところで老人が、長い話しの聞けない若者達の前から去って行くとき、その殺された平佐衛門の嫁のよねが、往生できず現れ若者達にかたきをとつてもらおうと決めつけてしまう。最初は冗談じゃないと断っていた若者達だが、よねと平佐衛門との深い愛情に何かを感じ、がんばってかたきを討とうと決心する。

しかし、いざという弱虫だったりする若者達、腰を抜かしたりいろいろありながら何とか勇氣を出して試みる、が結果は歴史を動かすことは出来ず、平佐衛門はやはり切られて殺されてしまう。

しかし、目的は達成できなかったけれども若者の働きに感動したよねも平佐衛門もやっと天国に行くことが出来、若者四人は、ふたりの天国への旅立ちを見送ってあげる。